

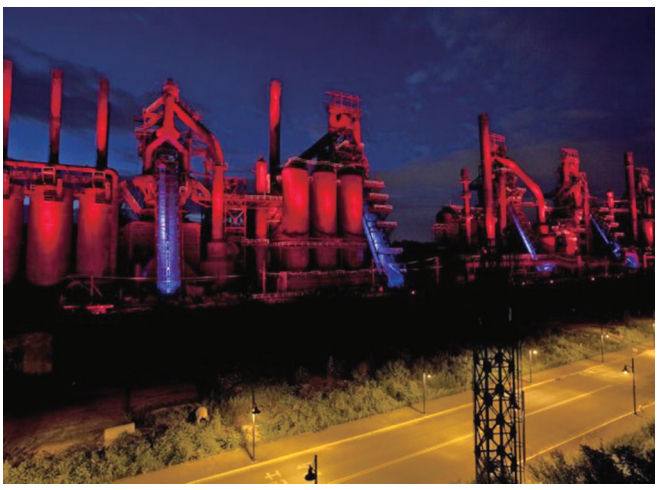
小野 あずさ

新しい職場

演劇の世界から一度抜けて、建築・空間・環境照明（以降、造語ですがASE照明と呼ばせていただきます）のデザインの会社に就職したことは、前々回のエッセイから触れさせていただきました。Speirs & Major というこの英会社は、そこまで大きい企業ではありませんが、照明デザインの賞を何度もとっているということもあり、知名度は高いようです。友人に就職が決まったことを伝えると、「すごいステップに乗り切ったね！おめでとう！あの会社なら、君は今後きっといい方向に進歩していけるよ。You are in a right hand.」と返してくれたのを覚えています。それを聞いたのも束の間、去年その会社に入社した同僚が私に言いました。「私が去年の9月にこの会社に就職してから今現在までで、11人の優秀なデザイナーが辞めたのよ。だから、今残っている人たちは、わずかな優秀な人たちと、あとは落ちこぼれが残ったのよ。」と聞き、とても驚きました。『つまり、会社のやり方についていけなかったということかしら…。人がごっそり入れ替わったということは、ある意味チャンスと受け止めるべきか？』と心の中で思いながら、心配してもしょうがないので、とにかく覚えることだらけの毎日のタスクをこなすことに専念しています。

ASE照明デザインの過程は、ざっくり5ステージに分かれています。ステージ1は大まかなアイデアと要望をクライアントから聞くこと。ステージ2は、それに対して、スケッチなどを用いてコンセプトを提案。ステージ3はコンセプトを具体化していき、どのような照明の当て方がふさわしいか、建築家やインテリアデザインナーと話し合い、3Dレンダリング等でイメージを現実化し、クライアントの了承を得る。ステージ4は、どの機材を使い、どこから当てるかを図面とスペシィフィケーションに書きおろす。建物やランドスケープのデザインが変わるたびに、それを修正する。最後のステージ5は、施工現場での調整、修正、シュートやプログラミンなどの仕上げです。メンテナンスは技術者が行いますが、メンテの方法等を提案するのも、我々のデザインの一環です。

私は、まだステージ5に関わったことがありません。その日が来るのが待ち遠しいです。皆さんもご想像つくかと思いますが、常設の照明を設計する過程は、演劇に比べ、年単位でとても長いです。ですので、たくさんのプロジェクトを抱えながら、午前中はこっちのプロジェクト、午後はあっちのプロジェクト、来週は香港…のように少しずつ前進していく形です。フリーランスのときから、プロジェクトを3股4股することには慣れていましたが、時間が経つたびに、関わるプロジェクトが少しずつ増えていっているのを、ひしひしと感じています。入社2カ月経った今、関わらせていただいているプロジェクトは6つ。その6つのプロジェクトを通して、ステージ1～4まで一気に経験できるのは、とても恵まれていてありがたいことです。（とは言いつつ、私の頭から蒸気が出ているのが見えますでしょうか?）。始めの2週間で、ノート1冊書き終えたくらい、頭に叩き込むことがたくさんあるので、楽しさと忙しさに明け暮れる毎日です。そのうえ、私の同僚の一人が、再来週お国に帰ってしまうため、その人の受け継ぎも慌ただしく始まり、口から泡を出しています。



S＋Mの過去のプロジェクト “Sands Bethworks” in USA

このスタジオで働いていて素敵だなと思うことは、社員の約70%が外国人で、約30%が英国人なところです。別に英国人を嫌っているわけではありませんが、他国人種が多いほど、職場は文化とアイデアで溢れ、楽しく刺激のある環境になると思うからです。人種は多彩で、アメリカ、ドイツ、フランス、スペイン、イタリア、オランダ、ギリシャ、ポーランド、アフリカ、韓国、マレーシア、そして日本です。最近は、会社の仕事の1/3がアジアのクライアントなので、近々日本にもスタジオを開くそうです。それゆえ、日本にいつ転勤になるか先が読めませんが、来るもの拒まず、チャンスと思ったことはどんどん挑戦したいと思います。次回のエッセイで、仕事内容についてもう少し詳しくお話しできたらと思います。

急ですが、演劇の畑を一度離れてしまったため、私のエッセイが今後どう皆様のお役に立てるか、微妙なところです。今まで、ノンセンスばかり書いてきた私のエッセイを、今日まで根気強く読んでくださった方々から、ご感想を募りたいと思います。現在アップアップ状態で、どこまで丁寧にご返答できるか保証できなく恐縮ですが、いただいたご感想を今後に活かしていきたいと思います。走り書きでも結構ですので、ご感想をいただけますと幸いです。タイトルは『エッセイの感想』で、こちらまで as921as@hotmail.com よろしくお願いいたします。それでは皆様、今日も1日、ファイト、ファイト、ファイトです！